

カナダ金融政策（2025年1月）

6会合連続の利下げと量的引き締めを終了を決定

2025年1月30日

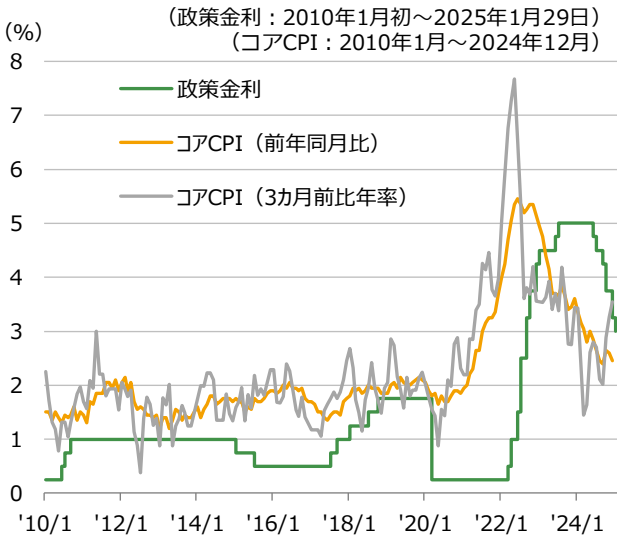
景気やインフレが上向き、外部要因の懸念もあり、利下げ停止を検討へ

カナダ銀行（中央銀行）は1月29日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を3.25%から3.00%に引き下げることを決定しました。利下げは6会合連続で、利下げ幅は直近2回の各0.50%ptから0.25%ptに縮小されました。また、量的引き締めを終了も決定しました。年内はバランスシートの規模を安定させ、その後は経済成長に沿って緩やかに拡大させる方針が示されています。

声明文では、利下げ決定の理由として、インフレ率が2%近傍で推移していることと、需給ギャップがマイナスの状態にあることを挙げています。他方、これまでの大幅な利下げが個人消費や住宅市場の回復に寄与しており、成長加速によって今年と来年は需給ギャップが縮小すると予想しています。今後の利下げについては、「必要性を会合ごとに判断する」との以前の文言がなくなり、何も示されませんでした。

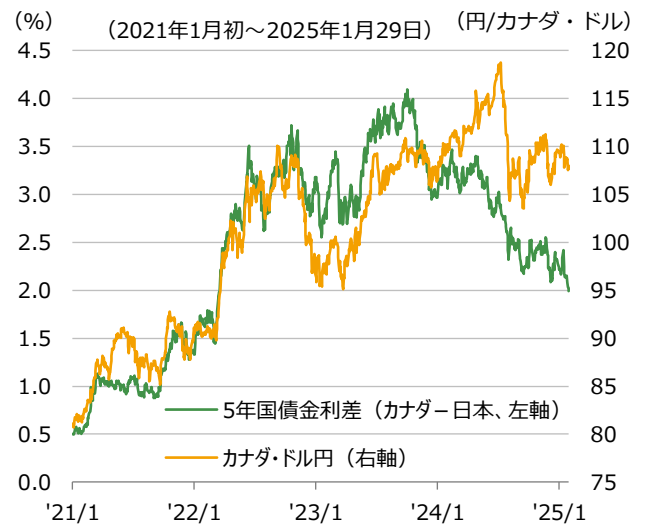
市場では追加利下げを予想する向きが多いものの、①コアCPI（消費者物価指数）の伸びが足元（3カ月前比年率など）で加速しており、今後は前年同月比でも加速する公算が大きいこと、②懸念されていた住宅市場の再過熱が現実味を帯びつつあること、③労働需給の緩和が一巡しつつあること、を理由に当社は当面の政策金利据え置きを予想しています。米トランプ政権の動向がかく乱要因ですが、カナダ銀行は関税引き上げが成長減速とインフレ上昇につながると想定しており、必ずしも利下げの材料になるとは限りません。市場の過度な利下げ観測が後退すれば、金利とカナダ・ドルの下支え要因になると見込まれます。

カナダの政策金利とコアCPI



※コアCPIは加重中央値とトリム平均値の平均
(出所) ブルームバーグ、カナダ統計局より大和アセット作成

カナダと日本の金利差とカナダ・ドル円



(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。